Caixa 2-z

SEMANARIO DE SÃO PAULO

No 146

15 DE AGOSTO DE 1924

聖州新報

ROGRO KOWYAMA
REDACTOR DE SEMANARIO DE S. PAULO
CAIXA POSTAL 58
RUA PIOTAN
BAURU
ESTADO DE S. PAULO
BRAZIL

社主兼編輯人香山六郎
發行所 バウル市ピオタン街
聖州新報社

革命閑話（下）

バウル……の赤化……週潮紀……全花火線香式に行きました……軍事命令……クルス……

……一キロ一ミルにしろ……と革命……軍司令オタビオ大尉君がバウル市……到着の翌日ソーゲ連を……怒鳴つたのでキロ一ミル四百レースの牛肉が一ミルに値下げ……日本……白米一升二十錢……云ふ……よい事が革命……はおかつたが二日目から……又キロ一ミル四百に逆戻り……何の事だ……ソーゲ連聯盟の上……キロ一ミルでは……

……の文句……

……ソーゲ連……

……二十八日……

……

……

外國電報欄

●臺灣の洪水（九日東京電）

台灣に大降雨ありて河水氾濫し七百人の溺死者を生じ、六千軒の家屋流失し、其被害多大なる由。

●北米一通信員侮辱さる
伊國フロレンサに於て（十日ナポレス電）

紐育ヘラルドの一通信員は伊太利フロレンサの飲食店に於て手帽を被りたるアンスタの目撃を委せしめつゝありし処、同店に居合せし伊国前外閣大臣義株が唐突彼の側に歩み寄り其面部に唾を吐き掛け侮辱したりと。それと共に同地新聞紙は筆を揃へて酷評しつゝありと。

●伊國に革命起きんとす（十二日電）

羅馬近郊の諸市にて革命を企てんとし諸所〳〵に檄文を掲げつゝある一団ありと。

●ヘットレ・フ氏アンマ氏世界的發明をなす

伊国人ヘットレ・フ氏アンマ氏は電気學上の大發明をなせりと。そは電波を応用し或る距離の間にある汽船、航空機等を操縦者を要せずして、自由に運轉させ得る作用のものにして實驗の結果その効を認めし同国提督タオレデリ・ベロ氏はこの発明に衷心感謝の意を表せり。

●京阪地方の大地震？

聖市ジョルナル ド コメルシオ紙の報ずる処によれば「京都、大阪地方に強震起り市街の大部は破壊さる」と。 ―委細後報―

●一獨人中佐サワラ砂漠を踏破す

一独人中佐ゼルケン氏はサハラ砂漠のツーグドよりトブートの両地間を單身一頭駱駝に跨りて踏破せりと。

●支那本部の大洪水

支那南部一帯に本月上旬より大降雨ありて諸川の河水は堤を破りて氾濫し、侵水は湖南、西川、江西、廣南等の諸省より廣東迄及び其間に散在せる都市村落は殆んど水中に没し、溺死者五万余を算し、物質上の損害甚大なる由。

避難民は安全地帯（向け續々歩を進めつゝありと。首都北京は此等数百萬の避難民を以て埋められ、飢餓に逐はれたる人の食を求むる声囂々しと。

●セルジッテ州に革命蜂起す（七月二十日電）

セルジッテ州に革命勃発すと。其数五六百人にして小銃四千余挺と二門の大砲を有し、其急速なる行動効を奏し大統領及其秘書官、他に兵校数名を捕虜となせりと。

後報（本月九日）

セルジッテ州革命首領エリペーデス・リーマ大尉以下主なる者はマルサール デ アリア大將の率ゐたる軍隊の爲め縛され、目下囚散し、全く鎮定されたりと。

マトグロッソ州騒擾す

マトグロッソ州内、カンポ・グランデ驛其他各所に於て政府軍に對し反旗を翻しつゝありと仏聞す。

フレシデンテ・プルデンテ驛に本據を据えたる革命軍本隊と相呼應し其勢強大にして、両軍の接戰屢々行はれつゝありと。

政府軍の一隊はセルケーラ・セザル驛より マンドリー驛方面に革命軍を驅逐中なりとか。

尚政府軍のドラジヤノ・フエラス大佐はシヤバンテス驛方面の戰鬪に敗れ、革命軍の追擊を受けたりと。

●革命軍加盟の士續々逮捕さる

當市のオ トラバリオ新聞社長ジヨゼルシオ タシルバ氏は義勇兵より革命論者たりしが革軍の撤退後政府軍の侵入するに

●革命軍將校聖市に護送さる

十二日麻州カンポグランデ市に於て一部革命隊現はれ政府軍との間に小銃戰開かれ三分に亘て両軍入り亂れ戰を交じ、数の革命軍遂に敗し其將校（大尉以下）八名は捕縛せられ聖市に護送さる。

●マラン大佐マトグロッソに向ふ

聖市を發しソロカバナ鉄道によりその沿線各地の革命枝隊を漸次驅逐しつゝボレビテ驛に止まる事約二週間なりしマラン大佐は本日バウル驛頭に數百人の兵と若干の將校下士と共に着せり。

その夜九時の汽車にて麻州に向て約半數の兵を繰兵糧及武器の没收自働車と積載してバウルを發す。

後半の兵は翌三日一少佐指揮の下に前軍の後を追ふて進發す。

因にマラン大佐は六十大隊後の手配にて既に昨日頭に帽を戴きさながら好々爺、うしき面相の所有者で戰鬪將校の感じもなかりきい。

●ミナスの軍兵來る

ミナス州モゲミリン驛よりジビアノ、メロ大佐の率ゐる約四百名の政府軍兵がソロカバナ線を經て來馬目下駐屯中にてセゾダオルデンの到るを待ちつゝあり。

●革命軍麾下の將校囚へらる

ポルトサルジヨウブ駅に於て大尉マウロギマエス、中尉ヴウウリオウルグワイ及軍曹ジスイノ リベロの三名は政府軍の手に虜となりたりと。因にマウロ・ギマエス大尉は曩に行衛不明となりし、オタビオギマエス大尉の弟なる由。

●一日本人聖市に送らる

ケナキ・ジヨアン？と稱する日本人は義勇兵としてミナス軍の第四大隊に偏入され居たる処、革命軍に囚へられ或婦人の下に八年のうき目を見居たるが、政府軍よりも同一視され十二日當市より聖市に向け護送されたりと。

●日本婦人の慘死於聖市慈善病院内

聖市サンタカーザにて療養中の日本婦人二名（シゲ子、オタ子）は砲弾に中りて無慘の最期を遂げたりと。

●ドトールルボボーザ氏肖像の百餘紙幣通過す

偽造紙幣視されて居た百ミル紙幣――ドトール ルボボーザ氏の肖像を掲げたる――は贋造にあらずと。

●アゼベドコスタ大將パラナに進擊す

自己地に退ける革命本隊を突かんとしてアゼベードコスタ大將は聖市を發しパラナ方面に進擊しつゝありと。

●ここゝりの火事

政革両軍激戰の渦中となりたるマンドリ市は諸所〳〵に火災を起じたりと、焼失家屋の主なるものはイルモンスアルメイグ氏所有の精米所（損害約三百ミコンス）フランシスコ アルケイダ氏邸宅（被害約百千コンス）等なりと。

●カストロフ氏リアード氏横領の二百三コントスを吐出す

政府軍の手により捜索の結果該二百三コントスは同氏の寢室寢台下に隠匿せるを発見し直ちにクロエステ鉄道局に返還されたりと。因みにその包の上にはジヨイアス デ ファミリアと認めグスタボ・マシエル氏の手を経てアリビオ ヘレス氏に渡すべき赤へ書してありたりと。

●バウルの鐵道交通

バウル発のパウリスタ鉄道は昨日に復したり、ソロカバナ線も復旧せり但し両線共午前の列車のみにて從來の夜行は発車せず。

尚インコンゴング便（三千発送）は受理するもカルガ便は両線共受付せず。

●バウルに霜降る

去る九日午前九時ソロカバナ線を經て二列車相繼ぎミナス兵を満載してバウルに到る其数百と目さる。

少時の停車後マトグロッソ州革命領壓の爲ノロエステ線を經て彼地に進發す。

●ドットトールロレナ氏歸る

バウル市に革命軍の勢力伸びるに及んで愕然、其度を失し三回の久しきに亘つて踪跡を晦ましたるドットトール ロレナ氏はバウル市かに再び政府軍の手に歸せりと聞き暮皇として、ジヤウ市を引擊ゲ九日午前九時手兵二十餘名を引具してバウルに歸る。

●革命軍兵百數十名捕虜となる

ボツカツ市附近に於て革命軍の勢力伸びるに及んで政府軍兵がソロカバナ線を經て來馬目下駐屯中にてセゾダオルデンの到るを待ちつゝあり。

因にマラン大佐は六十大隊後の手配にて既に昨日頭に帽を戴きさながら好々爺、うしき面相の所有者で戰鬪將校の感じもなかりきい。

●ミナスの軍兵來る

ミナス州モゲミリン驛よりジビアノ、メロ大佐の率ゐる約四百名の政府軍兵がソロカバナ線を經て來馬目下駐屯中にてセゾダオルデンの到るを待ちつゝあり。

●革命軍將校囚へらる

ポルトサルジヨウブ駅に於て大尉マウロギマエス、中尉ヴウウリオウルグワイ及軍曹ジスイノ リベロの三名は政府軍の手により虜となりたりと。因にマウロ・ギマエス大尉は曩に行衛不明となりし、オタビオギマエス大尉の弟なる由。

●一日本人聖市に送らる

ケナキ・ジヨアン？と稱する日本人は義勇兵としてミナス軍の第四大隊に偏入され居たる処、革命軍に囚へられ或婦人の下に八年のうき目を見居たるが、政府軍よりも同一視され十二日當市より聖市に向け護送されたりと。

●日本婦人の慘死於聖市慈善病院内

聖市サンタカーザにて療養中の日本婦人二名（シゲ子、オタ子）は砲弾に中りて無慘の最期を遂げたりと。

●ドットトールルボボーザ氏肖像の百餘紙幣通過す

偽造紙幣視されて居た百ミル紙幣――ドットトール ルボボーザ氏の肖像を掲げたる――は贋造にあらずと。

●アゼベドコスタ大將パラナに進擊す

自己地に退ける革命本隊を突かんとしてアゼベードコスタ大將は聖市を發しパラナ方面に進擊しつゝありと。

●革命軍加盟の士續々逮捕さる

當市のオ トラバリオ新聞社長ジヨゼルシオ タシルバ氏は義勇兵より革命論者たりしが革軍の撤退後政府軍の侵入するに

●革命軍兵百數十名捕虜となる

ボツカツ市附近に於て革命軍の勢力伸びるに及んで政府軍兵がソロカバナ線を經て來馬目下駐屯中にてセゾダオルデンの到るを待ちつゝあり。

●革命軍將校聖市に護送さる

十二日麻州カンポグランデ市に於て一部革命隊現はれ政府軍との間に小銃戰開かれ三分に亘て両軍入り亂れ戰を交じ、数の革命軍遂に敗し其將校（大尉以下）八名は捕縛せられ聖市に護送さる。

●マラン大佐マトグロッソに向ふ

聖市を發しソロカバナ鉄道によりその沿線各地の革命枝隊を漸次驅逐しつゝボレビテ驛に止まる事約二週間なりしマラン大佐は本日バウル驛頭に數百人の兵と若干の將校下士と共に着せり。

その夜九時の汽車にて麻州に向て約半數の兵を繰兵糧及武器の没收自働車と積載してバウルを發す。

後半の兵は翌三日一少佐指揮の下に前軍の後を追ふて進發す。

因にマラン大佐は六十大隊後の手配にて既に昨日頭に帽を戴きさながら好々爺、うしき面相の所有者で戰鬪將校の感じもなかりきい。

●ミナスの軍兵來る

ミナス州モゲミリン驛よりジビアノ、メロ大佐の率ゐる約四百名の政府軍兵がソロカバナ線を經て來馬目下駐屯中にてセゾダオルデンの到るを待ちつゝあり。

●革命軍將校囚へらる

ポルトサルジヨウブ駅に於て大尉マウロギマエス、中尉ヴウウリオウルグワイ及軍曹ジスイノ リベロの三名は政府軍の手により虜となりたりと。因にマウロ・ギマエス大尉は曩に行衛不明となりし、オタビオギマエス大尉の弟なる由。

●一日本人聖市に送らる

ケナキ・ジヨアン？と稱する日本人は義勇兵としてミナス軍の第四大隊に偏入され居たる処、革命軍に囚へられ或婦人の下に八年のうき目を見居たるが、政府軍よりも同一視され十二日當市より聖市に向け護送されたりと。

●日本婦人の慘死於聖市慈善病院内

聖市サンタカーザにて療養中の日本婦人二名（シゲ子、オタ子）は砲弾に中りて無慘の最期を遂げたりと。

●ドットトールルボボーザ氏肖像の百餘紙幣通過す

偽造紙幣視されて居た百ミル紙幣――ドットトール ルボボーザ氏の肖像を掲げたる――は贋造にあらずと。

●アゼベドコスタ大將パラナに進擊す

自己地に退ける革命本隊を突かんとしてアゼベードコスタ大將は聖市を發しパラナ方面に進擊しつゝありと。

●バウルに霜降る

去る九日午前九時ソロカバナ線を經て二列車相繼ぎミナス兵を満載してバウルに到る其数百と目さる。

少時の停車後マトグロッソ州革命領壓の爲ノロエステ線を經て彼地に進發す。

●ドットトールロレナ氏歸る

バウル市に革命軍の勢力伸びるに及んで愕然、其度を失し三回の久しきに亘つて踪跡を晦ましたるドットトール ロレナ氏はバウル市かに再び政府軍の手に歸せりと聞き暮皇として、ジヤウ市を引擊ゲ九日午前九時手兵二十餘名を引具してバウルに歸る。